

2月にアデレードに到着してから7か月が経ちました。今月いっぱいターム3が終わります。学校は慣れてきましたが、いまだに難しいことばかりです。やっぱり言語の壁は大きいです。自分の気持ちや話したいことを以前よりか、英語という言語を使って相手に伝えられるようになった気がします。そうなればなるほど伝えたいことも増えていき、さらに自分がこの言語においていかに不自由かを思い知らされます。オーストラリアという移民を多く受け入れる国に住んでいると、様々な国の出身者を見ます。私のいるアデレードは、ほかの都市と比べたら小さい場所ですが、それでも留学生やほかの国から移り住んだ人たちを見かけます。彼らはそれぞれ違う歴史的背景、言語、文化を持っていますが、英語という共通の言語でコミュニケーションをとっています。そう言った中で生活している2か国語を操る人に多く出会います。そういった方たちを見ると、英語を話せるってとても便利だなーと思います。技術が発展し、SNSの普及や、海外へ行きやすくなったことから、世界がぐんと近くなっている今、英語という世界の中でも一番といえるほど普及している言語を扱えるのは、それほど情報や人と話す機会を多く持てるためにとっても良い道だと改めて感じました。同時に、英語を話すことが、少し、義務や常識のように感じる時もあります。日本という国では、長年日本人だけが生活しており英語を必要とする場面はほぼないといってもよかったですと思います。実際、私も小中高と、自分と変わらない日本人だけが周りにいましたし、授業で習っていても、実生活で必要となることはありませんでした。舌の使い方も文法の順番も全く違う言語を習得するのはとても難しいですが、私たちは生活の中で必要にならないから英語をしゃべりません。それは今の社会においておかしいことでも何でもないのだと気付くことができました。

以前、わたしは多様化とは何ですか？と聞かれ、互いの価値観を認め合うことだと答えていました。今、私の考えは少し変わっています。私は、多様化とは自分とは違うことを認める、受け入れるのではなく、自分の価値観、考え、ライフスタイルを表現できることだと思っています。ただ表現するだけでよくて、なにも違う価値観を認めることも、受け入れる必要もないと思います。ただ、相手が自分を表現すること、選択することを許容する、受け入れることが重要で、その中身を他人が判断したり、認めたりする必要は全くないのだと気付きました。違う人種、違う価値観、違う文化、世界の距離がどんどん近づくことでこれらが混在する機会は日本でも増えていくでしょう。ただ、それらが認められる必要はなくて、ただ、それらが同じ場所に存在できさえすれば、それを多様性と呼ぶのではないかなと思います。